

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 11月 8日

東京大学での所属学部・研究科等:	新領域創成科学研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	日中学長会議学生フォーラム	派遣先大学:	中国東北大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	<input checked="" type="checkbox"/> 7. その他(国際機関)		

派遣先大学の概要

毎回場所は変わりますが、今回は中国東北大学でした。技術系に強い大学だと聞いています。学生ボランティアが非常に活発で有能でした。空港からホテル、会期中、そしてホテルから空港と、常に日本語か英語の話せる学生が付いていました。

参加した動機

中国に行ったことがなく、経験してみたかった。日中の優秀な学生と交流したかった。期間がごく短く、参加しやすかった。今回のフォーラムのテーマがぴったりだった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類提出のみでした。私は全く中国語は話せなかったのですが、フォーラムで討論するテーマへの関心を主に書きました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要ありません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に医療関係の心配はありません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学からあっせんされた保険に加入しました。しかし、クレジットカード付帯の保険があるので、正直言って二重になってしまいました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
所属の研究科に海外渡航届を出しました。またゼミの担当教官には応募前から許可を取り付けていました。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
フィリピン大学に1年留学、マレーシアに二年間の滞在で、TOEFLが99点でした。中国語の準備はしていません。挨拶くらいできれば良かったな、と今は思います。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ごく短いので特に必要なものはありませんが、必ず中国人留学生と相部屋なので、お土産があると仲良くなれます。また、フェイスブックやグーグル関連の物が全て使えない国なので、VPNをダウンロードしておくなどの対策をするとスムーズです。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
丸一日、テーマにそって日中の学生30人ほどで議論する、と聞いていましたが、実際にはプレゼンを1人5分、そして質疑応答という感じでした。まず初日は早く着いた人用にキャンパスツアーをしていたようです。私は夕飯から参加しました。夜はフリーなので、学生同士で飲みに行きます。そして二日目は本番で、事前に提出したエッセイの内容を5分でプレゼンします。一日のほとんどはプレゼンを聞いている時間です。その後夕飯で、またフリーなので飲みに行きます。3日目は都市観光がありましたが、私は私用で朝一番に帰国しました。なお、プログラム中の言語は英語です。一切学長側との接触はありませんでした。
②学習・研究面でのアドバイス
特にないですが、本当に優秀な人が集まりますので、議論に貢献するにはそれなりの専門性が必要です。中国語は全く必要ありません。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語のみなので、英語で自由にプレゼン、意見交換する必要があります。とはいえ、プレゼンは5分なのでなんとでも乗り切れると思います。原稿を読むなどする人はほとんどいませんでした。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
キャンパス内の高級ホテルに、中国人学生と相部屋です。これは毎回変わると思いますのでご確認ください。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
冬の中国東北地方はとても寒いです。交通に関しては、空港ホテル間、ホテル会場間も全てアテンド付きでした。食事も全て提供されました。お金は両替しようとしたところ、「使うチャンスがないのでなくていい」と言われました。結局飲み会などで必要でしたが、日本人同士は円でやり取りして終わりました。帰りの空港でお土産を買いましたが、カードが使えます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

学生街で治安はとても良かったです。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券が6万円程度でした。もっと安い航空券もあったと思います。飲み会は一回1人数百円でおいしいものが食べれます。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学から6万円の支給を受けました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

中国人学生とも仲良くなれますが、帰国後も会える日本人学生が財産になります。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ボランティアが常につき、なんの不都合もありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

中国全土でフェイスブック、ライン、グーグル関連のサービスが全て使えません。ホテルにはWi-Fiがありますが、速くはなかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日中の学生が一堂に会して意見交換するのは非常に意義深いと思います。ピアレビューでプレゼンを高く評価され、自信につながりました。こうした短期の濃密なプログラムも、案外有効だなという印象です。

②参加後の予定

修士課程に戻りました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日中の優秀な学生と友好を深めたことは非常に大きな財産になりました。チャンスがあればぜひ参加して、どんどん回りと仲良くなってほしいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし